

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【教育科学系】

学問(教育学)の内容と研究方法は密接に関連しているので、学問の内容に関する理論的な面での理解度と、実際の研究方法の理解度の2つを基準として成績評価を出した。

シラバスに記載の通りで、レポート評価6割、発表等4割。その結果、大半がA評価であったので、難易度はちょうどよいと考えられる。

学業成績の結果は、事前に説明した通りの基準で行っている。担当科目数が多いので、科目ごとに評価の基準を変え、同一の基準にならないようにしている。

・小児保健に関する課題レポートを課し、その内容およびレポート発表、討議への参加姿勢等を総合的に評価しました。

自らの意見を他者にわかりやすく説明できるかが、評価の主なポイントである。

授業内に課した感想レポート、課題レポートを基に評価を出している。

受講回数を最重視。教科書や提示した資料をよく理解しているかを筆記試験、小テスト、レポート等の提出物で評価した。

評価は、数回のレポートでおこなうものと、知識を問う筆記試験型のものとの、講義の内容に応じて使い分けている。それに加え、出席や授業中の発言などを加味している。レポート課題については、単にインターネットで検索した辞書的な回答をするのではなく、自分の考えを論理的にまとめているものには高得点を配した。レポートの書式が整っていないもの(表紙がない・短すぎる・引用が不適切)は大きく減点している。

授業内での小レポート及び課題レポートから、授業内容の理解度を読み取って評価した。学生へも、授業内容をふまえて記入することと事前に伝えた。

授業への出席及び取り組み状況とレポート等の提出物を基に、総合的に評価した。

講義科目では筆記試験を課し、試験結果に出席状況を加味して成績評価を行った。評価基準は大学の基準通りである。
演習科目ではレポートを課し、最終レポートの配点を80%程度、授業後に提出されるレポートを15%程度、出席状況を5%程度として、それぞれの得点を合計して評価を行った。

授業への準備・出席状況及び討議への参加意欲・態度とレポート等の提出物を基に、総合的に評価した。

発表内容において論理的思考、文章の整合性が取れているか、また発表態度や質疑応答が適切かについて検討した。
他者の発表における意見表出や討論における積極性についても考慮した。また、授業の遅刻については減点した。

介護について、広い視野で述べられることを評価の基準にした。
広い視野とは、社会情勢、当事者について、支援者について、家族についてなど、一つの視点だけではなく複数の視点から介護を捉えられることを指す。

期末に行った本試験及び追試験の得点により評価した。追試験は、本試験で60点未満の者に行った。また、本試験の得点はそのままの点数を、追試験受験者に対しては、(追試験の得点-60点)÷4を60点に加えた点数を、成績として報告した。

・授業はディスカッションが中心となるため、その参加態度および課題レポートで評価した。
・課題レポートの評価は、各領域の固有性もあり統一的な基準は設定しにくい。レポートとしての形式に加え、授業で扱った諸概念を踏まえた論述になっているかを一つの基準としている。

・授業中の関心・意欲やつぶやき・発言内容等
・授業担当者としてのテーマへの取り組み姿勢、意欲、当日の授業状況等
・当日の授業内容から提示したテーマについてのミニレポートおよび授業に関わる課題等
以上3点を総合し成績評価を行う。

授業の理解度を試験によって、授業への参加度を出席状況によって評価し、それらを総合して成績評価を行った。

レポート、授業内テストの得点の平均点で評価した。レポートは、実習、ボランティア、身近な場所等で気になった児童生徒を、授業で習った視点で見た場合の具体的な支援をレポートする内容であったが、授業で習った知識を、どれだけ言語化できるか、具体的、実践的な理解が得られているかどうかで評価した。